

1. 市内小中学校の状況(校歌)

- ・ 全ての小中学校に校歌が存在する。
- ・ 歌詞は、1番・2番・3番までのものが多い。
- ・ 歌詞には、学校名や地域名、校訓等が多くみられる。
- ・ PTAや教職員が作詞をしている校歌もある。

合川小学校 校歌

作詞 松浦 一
作曲 弘田 竜太郎

流れも清き
中の川
清きところに
合川の
尊き人の
思い出の
昔ゆかしき
この里よ

正しき道の
ひとすじに
さらば励まん
はらからよ
朝日の光
身にあびて
星のぞみの
いや高く

天名小学校 校歌

作詞 小林 良雄
作曲 杉野 泰彦

天名のさとよわが町よ
恵みゆたかな この土地に
育つ僕たち わたしたち
晴れたあしたも 雨の日も
えがおあかるく 通うもの

天名のさとよわが町よ
窓もさやかな 学びやに
学ぼうとたち わたしたち
規律正しく 根気よく
英知のいずみ ともにくむ

天名のさとよわが町よ
南のそらのはて遠く
仰ぐぼくたち わたしたち
いよよきたえて はばたいて
ゆくてをひらく 白雲に

郡山小学校 校歌

作詞 中井 正義
作曲 桂 宏

こぶしの花が
咲いている
天に輝く白い花
明るくあれよ
正しくあれよと
咲いている
広いゆたかな日々の窓
ここにやさしい芽が伸びる

小鳥もさえずる
呼びかける
西や東の友だちと
元気に学べ
仲良く学べと
呼びかける
おおぐ鈴鹿の山々よ
ここにあたらしい歌がわく

冬ぞら けやきが
立っている
幹もこずえも目をあびて
大きく生きよ
きれいに生きよと
立っている
英知はぐくむこの大地
ここにすこやかな
あすを見る

ああ ぼくらわたしら
郡山小学校

1. 市内小中学校の状況(校章)

- ・ 全ての小中学校に校章が存在する。
- ・ デザインには、学校周辺の環境や風土、歴史に関わるモチーフなどが採用されていることが多い。
- ・ 中央に校名や校名の一部を配している校章が多い。



【合川小】



【天名小】



【郡山小】



長太小



一ノ宮小



若松小



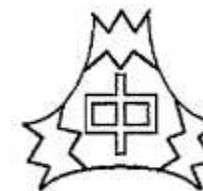
桜島小



庄内小



平田野中



鈴峰中

2. 他市町の事例

【桑名市】

児童らAIで校歌を作曲 26年春開校の桑名・多度学園

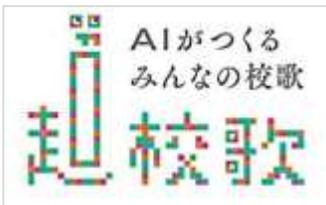
2024年11月26日 05時05分 (11月26日 14時27分更新)



人工知能（AI）を使って校歌を作曲する体験授業が25日、桑名市の多度中学校であった。2026年4月に開校を予定する同市の義務教育学校「多度学園」の校歌を、AIを活用して作詞作曲するプロジェクトの一環。

参加したのは多度東、多度北、多度青葉、多度中の4小学校に通う6年生110人で、理化学研究所（理研、埼玉県）が開発した楽曲生成AIのプログラムをパソコンで操作した。理研の音楽情報知能チームリーダーの浜中雅俊さんが講師になった。...

中日新聞Web 2024年11月26日



- ・ 歌詞に取り入れるキーワードを募集
- ・ AIを使って作詞、作曲

理研AIP × iU, BLab の共同研究

【明和町】



大淀小学校・上御系小学校・下御系小学校を統合し、これに加えて高宮小学校区の一部である北野・クィーンヒルズ・東野及び平尾の各地区を校区とする新しい小学校「明和北小学校」の校歌を制作します。

そこで、校歌制作のヒントとなるキーワードを募集します。皆さまからのたくさんのご応募をお待ちしております。

明和町HP > 明和町小学校区の再編について



- ・ 歌詞に取り入れるキーワードを募集
- ・ 作詞、作曲は地域にゆかりのある専門家に依頼

2. 他市町の事例

【伊勢市】

伊勢市HP > 二見小学校・今一色小学校統合準備会だより

○校歌

第4回統合準備会において、地域にゆかりのある方に校歌の作成を依頼することが決定されました。人選を行った結果、作詞を皇學館大学教授である齋藤平氏、作曲を三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事である野中正紀氏に依頼することとなりました(両氏とも、二見町出身、二見町在住)。第6回統合準備会で、校歌の原案を視聴し、協議の結果下記のとおり決定しました。

伊勢市立二見浦小学校校歌

♩-06. 明るく希望に満ちた



作詞：齋藤 平
作曲：野中正紀

1 れ きん
2 み ん
3 き よ



- ・ 地域にゆかりのある方に作詞、作曲を依頼

校歌・校章
いずれも!

- ・ 開校前、開校後それぞれの時期に作成している事例がある。
- ・ 各自治体の判断や地域・保護者の意向などにより作成時期を決めている。

【愛知県南知多町】

みさき小学校HP

「校歌制定セレモニー」近づく～校歌 全校児童が心を一つにする時～

開校半年を過ぎ、みさき小学校の学校生活が安定する中で、児童・保護者の皆様に歌詞となる言葉を募集し、町教育委員会より元教育委員の池戸義久様を通じて小櫻秀爾氏に依頼していただき10月末には原曲ができあがりました。12月には5、6年生が合唱練習を始めました。



- ・ 歌詞を児童、保護者に募集
- ・ 作詞、作曲は専門家に依頼

作成時期による特徴・考え方(校歌)

時期	特徴・考え方
開校前	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 開校式、始業式・入学式などで発表することができる。 ▪ 開校前に新校歌を練習することができ、新設校への期待感の醸成が期待できる。 ▪ 現在の校歌への愛着が薄れることが懸念される。
開校後	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 開校後しばらくの間(開校式・始業式)は、校歌を歌うことができない。 ▪ 新設校の体制の中で、児童・保護者、地域とともに作成することができ、学校を中心とした新しいコミュニティへの一体感や学校への愛着や誇りの醸成が期待できる。 ▪ 音楽の授業等を通して、全校で「校歌づくり」に取り組ませる等、新設校での最初のプロジェクトとして校歌づくりを位置付けることができる。

校歌・校章の方向性(事務局案)

① 作成時期

- 新設校の開校後に、児童が主体となって作成する。(校歌・校章)

② 作成方法

【校歌】

- 全校で「校歌づくり」に取り組み、歌詞を制作する。作曲は、専門家に依頼する。

【校章】

- デザイン案を複数制作してもらい、児童や地域住民に選んでもらう。

or

- 児童がデザイン案を考え、完成を専門家に依頼する。